

昨今、「貯蓄から投資へ」の流れが加速し、投資に前向きに取り組む人が増えているようです。中でも、「NISA」「iDeCo」「変額保険」の三つは、人気の資産運用方法となっています。本号では、「NISA」「iDeCo」「変額保険」のそれぞれの特徴やメリット・デメリットについてご紹介します。

①「NISA」「iDeCo」「変額保険」の特徴について

	NISA	iDeco	変額保険
利用できる人	18歳以上	20歳以上65歳未満	0歳～70歳 (商品により異なる)
投資対象商品	【つみたて投資枠】 金融庁が定めた基準を満たす 投資信託・ETF 【成長投資枠】 上場株式・ETF・REIT・投資信託	定期預金・保険・投資信託	特別勘定の投資信託
投資額上限 (年間)	【つみたて投資枠】 120万円 【成長投資枠】 240万円 (生涯投資枠1,800万円)	14.4万円～81.6万円 (働き方などにより異なる)	商品により異なる
税制優遇	運用益非課税	掛け金が全額所得控除 運用益非課税 受取時の税金控除	生命保険料控除 運用益非課税 解約時の優遇(50万円まで無税)
投資方法	【つみたて投資枠】 積み立て投資 【成長投資枠】 積み立て投資・一括投資	積み立て投資	積み立て投資
投資の引き出し	いつでも可能	原則60歳まで不可 60歳から75歳までの間に引き出す	可能 (10年以内は解約控除がかかる)
死亡時の保障	なし	なし	あり(死亡保険金)
口座開設手数料	無料	2,829円(税込)	無料
口座管理手数料	無料	2,052円～7,000円程度 (金融機関により異なる)	運用関連の費用 (商品により異なる)

②「NISA」「iDeCo」「変額保険」のメリット・デメリットについて

	NISA	iDeco	変額保険
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・税制優遇(運用益が非課税) ・売却の翌年から生涯投資枠の再利用が可能 ・比較的リスクリターンが大きな商品へ投資可能 ・年末調整・確定申告は不要 	<ul style="list-style-type: none"> ・税制優遇(運用益が非課税) ・受取時に一定額が非課税 	<ul style="list-style-type: none"> ・税制優遇(運用益が非課税) ・資産形成をプロに一任 ・運用成果に応じて受取金額の増額が可能 ・死亡・高度障害保険金には最低保証(資産価値の下方リスクは限定的)
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・元本割れリスク ・非課税枠投資に上限在り ・途中で現金化可能な反面、老後まで貯められない可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種手数料 ・加入資格により掛金の上限が異なる ・本人の手続きが必要 ・受取が原則60歳まで不可(年金資産額が掛金や移換金の総額を下回る可能性) ・年末調整・確定申告は必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・元本割れリスク ・投資信託等の純粋な投資商品に比べて運用コストが割高 ・満期時や解約時に満期保険金や解約返戻金が払込保険料の合計額を上回った場合、受取時に一時所得として所得税と住民税がかかる ・年末調整・確定申告は必要(場合による)